

# ●●暮らしの広場●●

## 克服へ

■乳がん編

(12)

工藤 明敏

乳がんが再発したら、進行を抑えて出てきた症状に合わせてゆっくり対応する、つまり長くがんと付き合うという方針になります。

乳がんは急速に進行することはありません。がんの症状だけでなく、化学療法の副作用や心の苦痛に対する全体的な治療「緩和ケア」が必要です。



知、たび重なる検査、投薬、手術、医療費と、身体的精

### がんと向き合う

## 前向きでなくてもよい

神的にもつらいことが続き、また治療が一段落しても再発への不安や悩みがつきまといま

緩和ケアは、医師だけでなく、看護師、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、医事職員などがそれぞれの立場から連携して「チーム医療」で行います。

アメリカで作成されたがんと向き合うためのガイドラインを紹介し

1、「がん＝死」と思い込まないようにしましょう。多くのがんが治癒可能ですし、がんがあっても長い期間コントロールが可能です。

2、自分のせいでがんになったと思わないようにしましょう。

3、気分が動揺した場合は、情報を集めたり、家族や友人に話を聞いてもらったり援助を求めま

4、前向きになれないからと、自分を否定しないようにしましょう。

5、リラクセス法や音楽など、自分の気持ちをうまく

コントロールする方法を見つけましょう。

6、担当医と尊敬や信頼を築ける関係を作りま

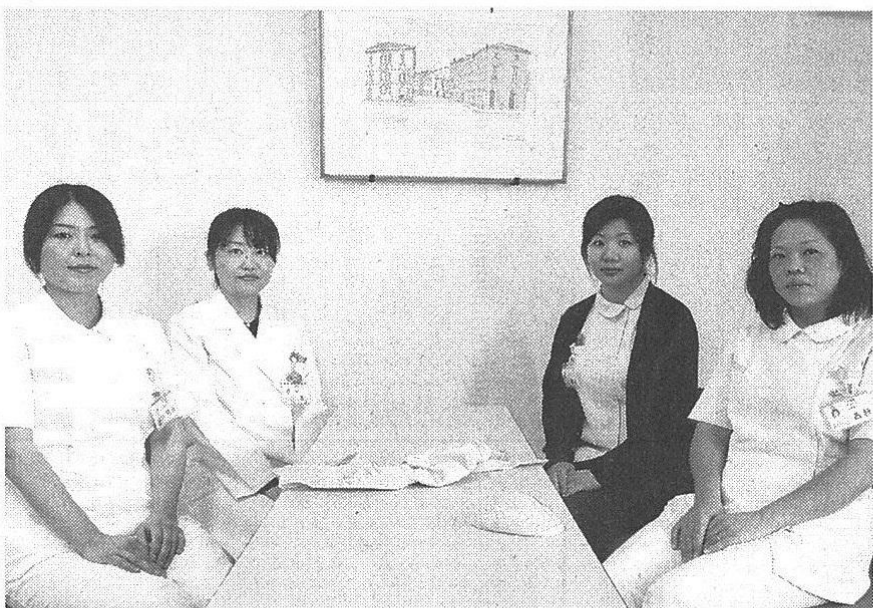
7、治療を投げ出して、民間療法に頼らないようにしま

当院のチーム医療を担う「プレストケアチーム」の取

り組みを以下に、チームリーダーの縄田奈津江が説明しま

乳がんの増加に伴い患者さまにより良いケアや情報を提供し、乳がんと共に生きていくことを支えるために、プレ

ストケアチーム「四つ葉のクローバー」を結成しました。外来・病棟看護師、薬剤師



阿知須共立病院プレストケアチーム「四つ葉のクローバー」。(左から) チームリーダー縄田病棟看護師、泉薬剤師、藤永作業療法士、西村外来看護師

と理学療法士で構成されています。外来から入院、手術後のリハビリ、そして日常の生活スタイルを維持することを

目標に、継続的かつタイムリーなケアを目指しています。外来では、告知に立ち会っ

て精神的サポートを行います。病棟では、患者さまの不安を整理し安心して手術に臨んでもらえるよう援助してい

ます。理学療法士は、手術後のリハビリやリンパマッサージを指導し、チームとして治療を支えています。また、乳房切除後の外見上の問題をカバーするだけでなく、切除に

よる乳房のズレや左右のバランスを整えるための補正下着や、それまで使っていた下着の補正方法を紹介しています。このように外来・入院から退院・その後の定期受診に患者さまと関わり、信頼関係を築くことで少しでも支えとなるようチームで活動しています。(阿知須共立病院診療部長、外科部長) 第2、4火曜日掲載